

2026 年 1 月札幌圏および新千歳空港における大雪時の 行動制約と気象条件の対応

— 大雪発生後早期アンケート結果に基づく分析 —

Weather Conditions and Behavioral Restrictions during the January 2026 Extreme Snow Event in the Sapporo Area and New Chitose Airport: Analysis Based on an Early Post Disaster Questionnaire Survey

山口 美里¹, 白川 龍生²

Misato Yamaguchi¹, Tatsuo Shirakawa²

Corresponding author: shirakaw@mail.kitami-it.ac.jp (T. Shirakawa)

¹北見工業大学大学院工学研究科, ²北見工業大学

¹ Graduate School of Engineering, Kitami Institute of Technology, ² Kitami Institute of Technology

本研究では、2026 年 1 月 25 日に札幌圏で発生した大雪を対象に、札幌圏の生活者・訪問者を含む滞在者および新千歳空港の滞留者を対象にアンケート調査を実施した。調査は大雪発生後早期（約 1 週間後）にオンラインで実施し、記憶が鮮明な段階で状況把握を行った。また、札幌の観測値に基づき、降雪量および積雪深の推移を背景条件として把握した。回答結果を立場別および自由記述を含めて分析し、大雪時の行動制約や情報提供に関する基礎的知見を得た。

1. はじめに

2026 年 1 月 24 日から 25 日にかけて、札幌管区気象台では降雪量 54 cm を記録し、積雪深は 60 cm から 112 cm へ急増した（図 1）^{1)~3)}。この短時間の積雪深増加が、札幌圏における交通障害や新千歳空港での多数の利用者の滞留を引き起こす背景条件となった（図 2）。

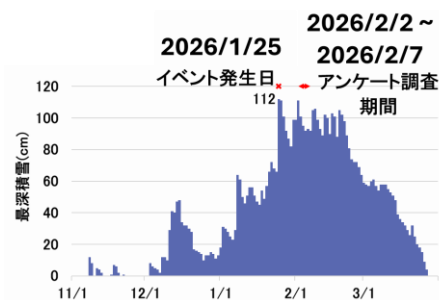


図 1 2025/26 年冬期における札幌の日最深積雪の推移とアンケート調査実施時期²⁾



図 2 2026 年 1 月の大雪時の新千歳空港ビル内
(写真提供 瀧澤靖典 様；一部を加工した)

そこで本研究では、2026 年 1 月 25 日の大雪時に生じた行動制約の実態を把握し、今後の備えに資する知見を得ることを目的として、アンケート調査を実施した^{4), 5)}。調査は、大雪イベント発生から約 1 週間後の 2026 年 2 月 2 日から 7 日にかけて行い、記憶が鮮明な段階で当時の困難や判断上の課題を把握した（図 1）。

2. アンケート調査概要

本研究では、「札幌圏大雪調査」および「新千歳空港滞留調査」の 2 種類のオンラインアンケートを実施した（表 1）。自由記述を含めることで、

表 1 2 種類のアンケート調査の概要^{4), 5)}

項目	札幌圏大雪調査	新千歳空港滞留調査
調査名	2026年1月25日の札幌・新千歳における大雪で困ったこと	2026年1月25日の大雪に伴う新千歳空港での滞留で困ったこと
調査対象	2026年1月25日の大雪により、札幌圏および新千歳空港周辺で影響を受けた方	2026年1月25日の大雪により、新千歳空港で影響を受けた方
調査方法	Google フォーム によるオンライン	同左
調査期間	2026年2月2日～7	同左
回答数	n = 127	n = 26
主な設問	回答者の立場、困難の内容、自由記述	滞留時間、困難の内容、自由記述

大雪時の行動制約や困難の実態を把握した。

3. 調査結果

3. 1 札幌圏大雪調査

札幌圏大雪調査では、回答者を生活者、通勤・通学、出張・業務での移動、観光・私用での移動などの立場に分類し、大雪時に生じた困難の特徴を比較した。図3に回答者の立場を、図4に立場別の困難内容を示す。

図3より、最も多かったのは札幌周辺の住民で、全体の約3分の1を占めた。次いで、通勤・通学、出張・業務での移動の回答が多く、幅広い立場から回答が得られた。

図4より、立場を問わず、鉄道、バス、徒歩など移動そのものの困難が最も多く、回答者の

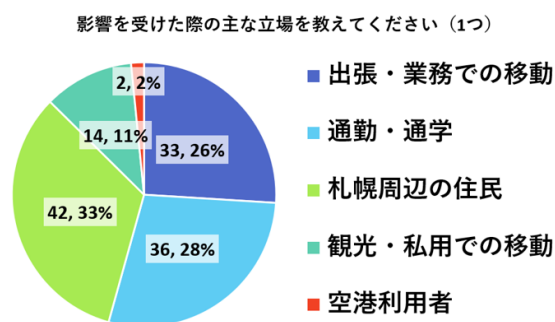


図3 「影響を受けた際の主な立場を教えてください (1つ)」 (n = 127)

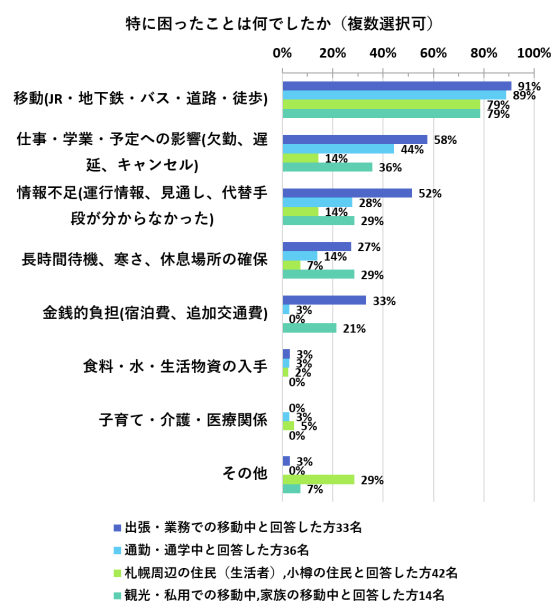


図4 「特に困ったことは何でしたか (複数選択可)」 立場ごとの集計 (n = 127)

8割以上が挙げていた。一方、出張・業務での移動では、運行情報や運転再開見込みなどの情報不足を挙げた回答が半数を超え、他の立場よりも高い割合を示した。

図5.1および図5.2は、自由記述を回答者の立場ごとに分類した結果である。図5.1より、通勤・通学では、「通常20分の移動に2時間30分以上を要した」など、公共交通機関の遅延や道路状況の悪化に伴う移動時間の増大が多くみられた。一方、札幌周辺の住民では、「雪かきにほぼ1日を要した」など、除排雪に関する回答が目立った。また、「わだちによるスタックで4時間を要した」といった回答もあり、除雪不足による道路環境の悪化が行動制約を増幅させたことが分かった。

図5.2より、出張・業務での移動および観光・私用での移動では、鉄道や道路交通の障害に加え、運転再開見込みの変更や情報の不確実性に関する回答が多くみられた。「札幌駅まで12時間を要した」「高速道路から一般道へ迂回し、大渋滞により通常の約3倍の時間を要した」など、長時間の移動や滞留を経験した回答が多く得られた。

以上より、2026年1月25日の大雪では、短時間の著しい降雪と積雪深の急増を背景として

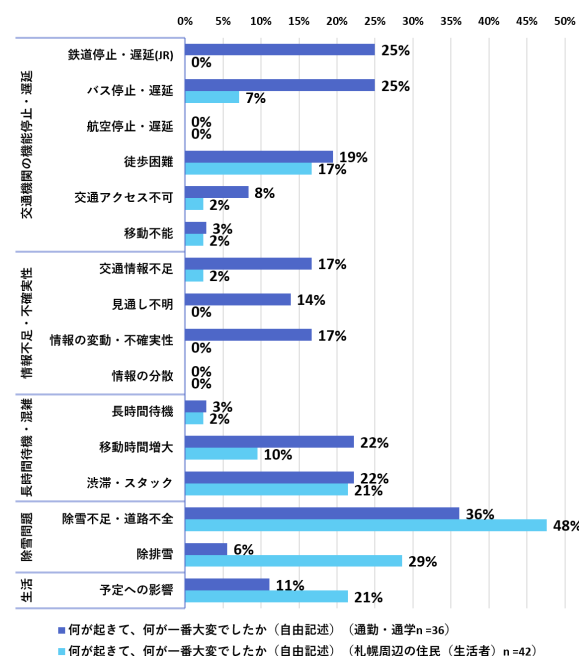


図5.1 「何が起きて何が一番大変でしたか？」

(自由記述)」その1: 通勤・通学 (n = 36), 札幌周辺の住民 (n = 42)

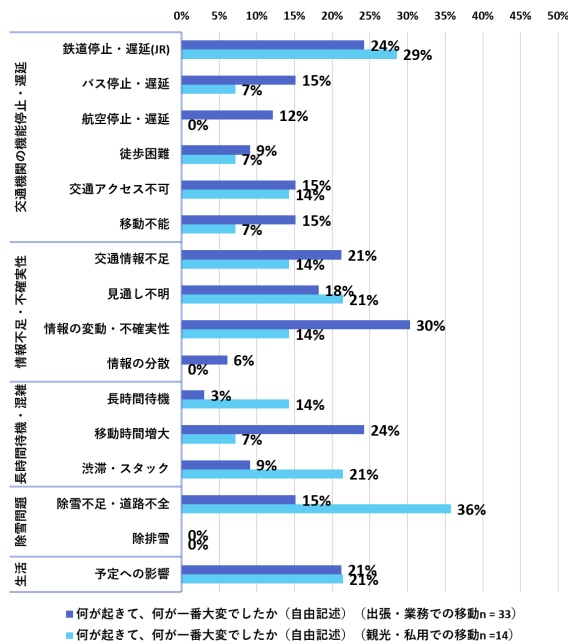


図 5.2 「何が起きて何が一番大変でしたか？
(自由記述)」その 2：出張・業務での移動
(n = 33)，観光・私用での移動 (n = 14)

交通障害が広範囲で発生し、物理的な移動困難に加え、運転再開見込みの不透明さや情報不足が行動制約をさらに増幅させたことが明らかとなった。

以上の結果から、大雪時の行動制約は交通機関の停止そのものだけでなく、再開見込みが不明確であったことにより一層増幅されたことが示された。このことから、大雪時には交通機関の復旧に加え、運行見通しを適切に提供することが利用者の行動判断を支援する上で重要であると考えられる。

3. 2 新千歳空港滞留調査

新千歳空港では、多数の利用者が空港内で長時間の滞留を余儀なくされた(図 2)。図 6 に、新千歳空港における滞留時間を示す。3～6 時間および半日程度滞留した回答が全体の約 8 割を占め、多くの利用者が通常より長時間空港内に滞留していたことが分かった。

図 7 より、「運航や再開の見通しが分からない」との回答が 24 名と最も多く、全体の約 9 割を占めた。また、長時間滞留した回答者では、「待機場所や座席の確保」や「宿泊先の確保」を困難とする回答が多くみられた。

図 8 は、自由記述を分類した結果である。「交

2026年1月25日の大雪時、新千歳空港でどの程度滞留しましたか (n = 26)

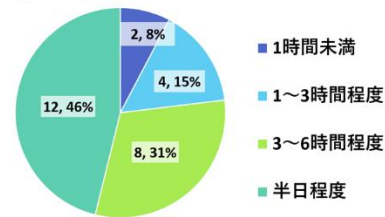


図 6 「2026 年 1 月 25 日の大雪時、新千歳空港でどの程度滞留しましたか (1 つ)」 (n = 26)

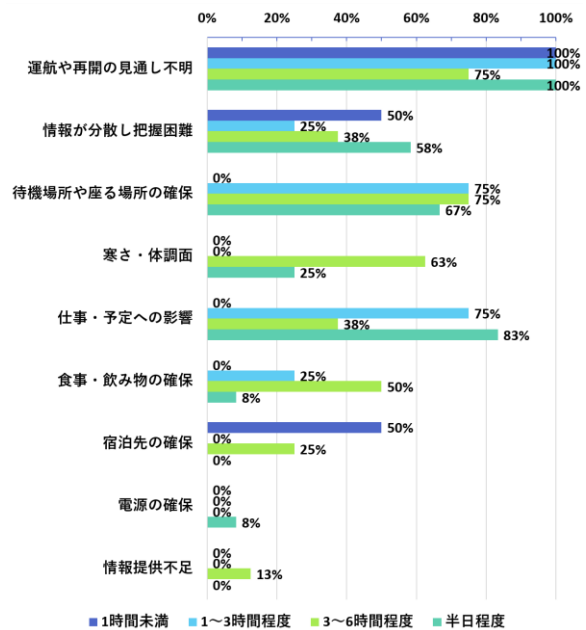


図 7 「滞留中に特に困ったことは何でしたか (複数選択可)」 (n = 26)

通機関の見通しが二転三転した」「運転再開予定が繰り返し延期された」など、情報の不確実性や見通し不足に関する回答が最も多かった。

さらに、「どこでどうしたらよいか分からなかった」といった回答もあり、情報不足が利用者の判断を困難にしていたことがうかがえた。

以上より、新千歳空港では、大雪に伴う交通障害による長時間滞留に加え、再開見通しの変更や情報不足が利用者の行動判断を著しく困難にし、不安や心理的負担を増大させたことが明らかとなった。

新千歳空港では、長時間滞留だけではなく、「いつ動くのか分からない」ことが利用者の判断や心理的負担を大きくしたことが明らかとなった。今後は、運行情報だけでなく、見通しの不確実性を含めた情報提供のあり方について検討する必要がある。

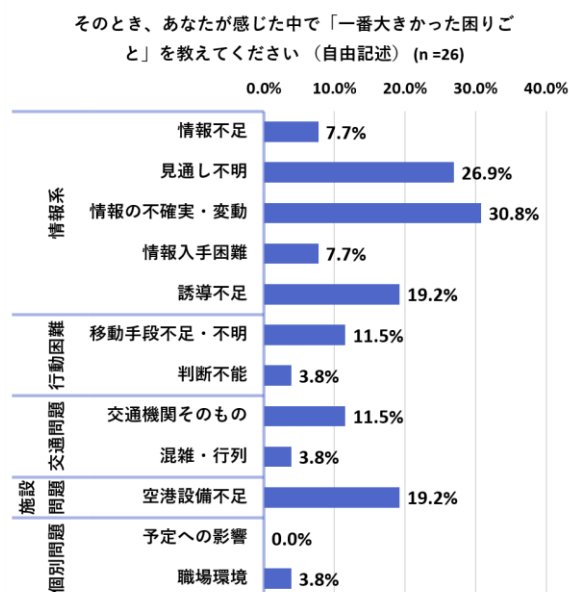


図8 「そのとき、あなたが感じた中で「一番大きかった困りごと」を教えてください (自由記述)」 (n = 26))

4. まとめ

本研究では、2026年1月24日から25日にかけて札幌圏で発生した大雪について、大雪発生約1週間後にアンケート調査を実施した。その結果、交通機関の停止や道路障害による物理的な移動困難に加え、運行再開の見通しが不明確であったことや情報不足が、行動判断を困難にし、不安や精神的負担を増大させたことが明らかとなった。

また、札幌圏では立場によって困難の内容が異なり、生活者では除排雪や道路環境、移動者では交通機関の遅延や情報不足が大きな課題となった。一方、新千歳空港では長時間滞留に加え、運航見通しの不確実性や情報提供の不足が利用者の行動制約を増幅させていたことが示された。

今後は、2022年札幌大雪時との比較を通じて、気象条件の違いが行動制約や利用者の意識に及ぼす影響について、さらに検討を進める予定である。

なお、アンケート調査結果の全文は、「2026年1月24日からの札幌圏大雪および新千歳空港滞留に関するアンケート調査 (データ集: 2026年)」(白川, 2026c) で公開している⁵⁾。

【謝辞】

本調査にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。厳しい状況の中でご提供いただい

た体験談は、都市型大雪時の移動困難と情報課題を記録する非常に貴重な資料となりました。ここに深くお礼申し上げます。

【参考文献】

- 1) 札幌管区气象台 (2026): 令和8年1月24日から25日の大雪に関する気象速報. 札幌管区气象台, 8pp.
- 2) 気象庁ウェブサイト「過去の気象データ検索」(<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/>) (閲覧日: 2026年6月26日)
- 3) 白川龍生 (2026a): 札幌圏大雪に対する積雪断面観測 —都市型大雪の実態把握と防災への展開—. *SAFER R&D Report*, 6, 46-47.
- 4) 白川龍生 (2026b): 札幌圏大雪時の移動困難・滞留に関するアンケート調査 —都市型大雪における交通と情報不確実性の実態—. *SAFER R&D Report*, 6, 48-49.
- 5) 白川龍生 (2026c): 2026年1月24日からの札幌圏大雪および新千歳空港滞留に関するアンケート調査 (データ集: 2026年). 北見工業大学雪氷・気象防災研究室研究資料, 26 pp.
<https://kitami-it.repo.nii.ac.jp/records/2001092>